

令和7年度

専門学校 静岡工科自動車大学校

学校評価書（学校関係者評価）



専門学校 静岡工科自動車大学校 校長 古澤 浩一

静岡工科自動車大学校評価委員会 委員長 長尾 智晃

## (1) 教育理念・目標

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか	経営理念、教育理念を定め、職員に周知徹底をしている。 教育の柱となる3つのポリシー(DP、CP、AP)を策定し、公開している。	4	特になし。	特になし。
・学校における職業教育の特色は何か	現役メカニックによる実習授業を展開している。実習数は16実習科目(16社)。元整備士による時代遅れの教育ではなく現在の整備現場を的確に教えるための実習になっている。資格取得に向けた学習は本校教員が担当し、主要実習は現役整備士という分担が成功した。	4	特になし。	現役メカニックによる実習では、基本的内容のほか、実践的なやり方や、機器の取り扱いを行っているか。
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	中期構想として第11次中期経営計画(2025~2027年度)を推進中。	4	特になし。	特になし。
・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・父母等に周知されているか	3つのポリシー(DP, CP, AP)を策定し学生便覧に掲載している。 また学校情報をホームページ上で公開している。	4	特になし。	特になし。
・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	様々な場面で企業との連携を目指している。その結果、学生が業界ニーズを感じることができている。また育人人材像も毎年見直しを行い、業界ニーズに合致させている。	4	特になし。	特になし。

\* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・企業様と連携し質の高い授業を継続し、企業様から求められる学生を育成する。
- ・AIを活用した、授業展開を今後も進めてまいります。
- ・モータースポーツや、ボディエンジニア研究科イベントの積極的な参加を行い、学校認知度を向上させる。

## (2) 学校運営

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	毎年度、目標と方針を策定し、職員全員に周知するとともに、各課においても目標と方針に沿った具体的な目標を定め、活動している。また、取り組み状況や環境に応じ柔軟に修正している。	4	自動車業界の環境が大きく変化しており、その影響が学校運営にも及んでいる。経営環境の変化に柔軟に対応できるよう情報収集、問題の共有化を推進したい。	特になし。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	中期経営計画達成のため、毎年度の事業計画及び予算計画を策定している。事業計画は令和7年度についても計画どおり執行した。	4	特になし。	特になし。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか	毎年運営組織・分掌を明示した組織図を作成し、職員に周知するとともに、意思決定機能も明確にしている。	4	特になし。	特になし。
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	サービス規程により人事、給与については整備されている。また、労務管理について再確認し、より良い職場環境になるように見直しを行っている。	3	人事評価システムの改定は概ね良い方向に機能している。「働き方」の意識改革が必要になるため様々な取り組みを行っている。	特になし。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	組織整備については教務課、入試・進路課、総務課の幹部職員により協議、調整を図り、決定している。	4	常に話し合い意思統一を行っている。	特になし。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	法令順守については個人情報管理等の規程を制定し運用している。また、教職員業務対応手順を作成し、苦情等対応も含めた体制を整備している。	4	特になし。	特になし。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	文部科学省の情報公開ガイドラインに沿った学校情報をホームページ上に公開している。その他 SNS なども活用し、ほぼ毎日教育活動を発信している。	4	特になし。	特になし。

・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	教務、募集、経理、勤務等を統括したシステムを運用しており、業務の効率化が図られている。また Google Workspace を活用した教育システムが機能しつつある。	4	特になし。	特になし。
----------------------------	---	---	-------	-------

\* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・業界の変化に応じた情報収集や問題共有の強化を行う。
- ・人事評価をベースとし、働き方改革の推進を実施する。
- ・コミュニケーションを密にした、意思統一の徹底を行う。

### (3) 教育活動

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程を編成及び実施している。	4	定期的に見直しを行っており、特に問題はないと感じている。現在の科・学年主任が就任して2年目、継続的に新たな視点からの先進的な意見・提案が発信されている。	特になし。
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	教育到達レベルと学習時間をシラバスに明記し HP 上でも公開している。現在の学習時間は国土交通省が定める基準並みとしてあるため、限られた時間の中で最大限の効果が得られるよう活動を行っている。	3	自動車整備士養成課程改定の初年度となった。教育時間数削減に対応した教育内容精査に加え、休校日が増えたことにより補講・補習を実施する機会を増やすことができた。次年度は2年次教育が初年度となり、今後も教育内容の見直しを継続していく必要がある。	特になし。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。国土交通省が定める指定基準に沿って、学期末ごとに全職員で見直しを行い、業界との格差が発生しないようにしている。	3	カリキュラム編成委員会のほか、自動車ディーラーの現役エンジニアが授業を担当する機会が増えた。講師契約を結ぶに当たりシラバスを確認していただいていること、また、授業内で業界の情報を取り入れていただくことで格差は発生しにくい状況とすることができている。	外部講師の方が授業を担当した場合の評価基準にばらつきが生じないか
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	教務目標に社会人として必要な人間性(社会人基礎力)を身に付けることを目標としており、担当(チーム担任制)を中心に指導を実施している。学校関係者評価委員会の外部委員からの意見についても可能な限り導入している。	3	残念ながら、卒業生、在校生の法令違反者が相次いで発生している状況となっている。担当職員の指導も重要な要素ではあるが、時には外部団体の力も借りながら様々な立場から継続的にコンプライアンスの教育に力を入れていく必要があるものと判断する。	今後も、各関係団体に講義を依頼し、在校生のコンプライアンス意識向上を行う。

・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	企業及び業界団体から委員を迎えカリキュラム編成委員会を開催している(5月、8月の2回)その中で、新たな自動車整備士養成課程実施に向けたシラバスの見直しを行った。	4	今後も定期的に見直しを行い、企業ニーズに合った教育になるよう改善している。カリキュラム編成委員会からのご意見を取り入れ、整備作業アンケートの見直しを継続している。	特になし。
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	すべての科においてインターンシップを実施している。また、企業と連携し一部の実習授業を自動車ディーラーの現役エンジニアに担当していただく仕組みを取り入れた。次年度は、さらに拡大する予定となっている。	4	企業側も学校教育に協力的であり、特に問題はないと感じている。人手不足の中、長期間に渡り講師を派遣していただいている企業から、業界を継続・発展させたいという思いを共有することができている。	特になし。
・授業評価の実施・評価体制はあるか	授業評価は年2回実施しており、各期末に全体の評価結果を公開している。また、評価の低い授業担当者には教務課長が個人面談を実施し授業のアドバイスをを行うことで改善を図っている。	4	アンケート結果の目標を76%以上とし個人目標に結び付け評価している。A 評価1・2学期平均で81.4%(R6年度は82.15%)と昨年度並みの高い評価を得ており、担当者が変わっても安定した授業運営ができていものと考えられる。今後も学生に支持されるような教育活動を継続したい。	特になし。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	学校関係者評価委員会により評価を行っている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただいているので、特に課題を感じない。	特になし。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価基準は学校側の主導により明確に定めてあり、学生には学生便覧(教務規定掲載)を全員に配布し周知徹底している。	3	基準は学生便覧(教務規定掲載)に明記されており問題はないと感じているが、その運用において経験年数が少ない職員は理解が進んでいない印象がある。定着するまで時間が必要と感じられる。	特になし。

<p>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	<p>整備士資格以外はカリキュラム上には定められていないが、放課後等を利用し、資格取得のサポートをしている。必須資格と選択資格に分け学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。自動車運転免許は取得の必要性を学生に伝え、上位免許の取得を促している。</p>	<p>4</p>	<p>運転免許に関し、専門学校と教習部門の連携により例年以上の入校・取得の実績を上げることができた。今後も就職に必要な種類の運転免許（準中型・中型・二輪など）の取得を後押し、自動車整備士として困らないよう指導していきたい。</p>	<p>様々な車種に対応できるメカニックを育成するため、学生に運転免許、上位免許の取得を促している。</p>
<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか</p>	<p>第一種養成施設の指定基準に準拠するため必要があるため資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を採用している。</p>	<p>3</p>	<p>一級自動車整備士を取得している職員の割合は高水準であるが、専門学校の教員としてのキャリアが短い職員が増えている。将来に渡り高いレベルの教育を安定して提供するためには、定着率を高めるような対応策が必要だと考えられる。</p>	<p>特になし。</p>
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	<p>自動車整備業界からだけでなく、自動車整備機器取扱業界からの職員を採用することができた。また、外国籍社員の採用により、グローバルで実践的な教育を提供できる組織となり、国際オートメカニクス科は大きく飛躍することができた。</p>	<p>4</p>	<p>令和6年度より自動車ディーラーと実習授業の講師契約を結び、現役のエンジニアから指導を受けられる環境を整えた。また、外国籍社員は、自身の留学生としての経験を学生に伝えているなど優れた教員を確保している。今年度ミャンマー出身の卒業生を教員として迎えることができた。</p>	<p>特になし。</p>
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか</p>	<p>自動車整備振興会による新技術研修は毎年全教員が受講している。また、今年度も年間を通して指導力向上研修を計画し実践した。</p>	<p>3</p>	<p>6月に最新の技術についての研修を受講した。研修で得た知識や技術を授業内で学生に伝えている。ASV車両やエーミング作業のツールも充実してきており、ASV車の整備にも対応できる環境を整えている。スキャン・ツールも多数配備でき、充実した教育活動を行うことができています。</p>	<p>特になし。</p>

<p>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</p>	<p>職員に対し職務要件に応じた本部研修を実施している。その他の研修は個人で希望すれば研修に参加させている。また、世の中の動向に注視し、必要な資格を全員が取得するよう働きかけている。</p>	<p>3</p>	<p>自動車整備科に留学生が入学、指定工場の担当者など、これまで固定化されてきた環境が大きく変わりつつある。留学生を指導するのに必要な知識や規則・法令、自動車整備工場での学生指導など、それぞれの立場で必要なスキルを伸ばす取り組みが行われている。令和7年度には1名が自動車検査員資格を取得した。</p>	<p>特になし。</p>
--------------------------------	---	----------	--	--------------

\* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・ 現役メカニックによる最先端技術、設備の導入により現場に即した教育を行い、資格取得を強力にサポートする。
- ・ 留学生指導や、カウンセラーの配置によるメンタルケアで退学防止に努める。
- ・ 在校生にコンプライアンス教育の重要性を理解させ、法令遵守の意識を向上させる。

## (4) 学修成果

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・就職率の向上が図られているか	無料職業紹介所の届け出を行い、求職票を提出した学生を対象にキャリアマップを利用し就職斡旋を行っている。各企業のガイダンスは例年通り実施しており、面接指導や書類作成に関する指導は担当がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。	4	一部の企業に応募が偏る傾向が見られる。採用担当者の人柄やガイダンスの内容といった一時的な要素に左右されることが大きいと感じる。学校としては客観的な企業の情報を発信することで、多数の企業に興味を持ってもらえるよう指導している。	特になし。
・資格取得率の向上が図られているか	学生の資質を考慮した対策前の実施計画を作成し、計画に従い実施した結果、本年度も高い合格率を維持できた。	3	学生の資質を見極めながら、成果の上がる学習方法を常に検討し、合格率の向上を目指す。整備士新制度では、学科でのオンライン授業が認められているため、オンラインによる資格試験対策を実施できるよう授業方法の改善をしていきたい。	特になし。
・退学率の低減が図られているか	年度初めに退学者の目標値を定め、各月の職員会議で状況を示し、組織的、計画的に退学者の減少に努めた。また、進路相談や普段の生活面での相談ができるよう外部カウンセリングを行う窓口を設置している。	3	利用状況は数名の固定学生が継続的に利用しているのみである。学生が話しやすいようカウンセリングルームを開設したが利用者が少ない状況である。カウンセラーの先生の自己PRを学生に見えるような形で、紹介する取り組みも必要と考えられる。	特定の学生がカウンセリングを利用しており、「すぐ相談できる場所があること」を全体への周知する必要があると考える。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	企業との情報交換により把握するよう努めている。卒業生が技能コンクールの全国大会で活躍した情報を収集している。	3	企業実習時間を増やすことで企業との交流の機会が増え、入手できる情報が増加した。本年度は各企業内で技術大会なども行われ卒業生の活躍を見学することができた。ガイダンスの機会に採用担当者へ	特になし。

			確認すると、留学生の活躍についての話が増えてきた。	
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	企業の採用担当者や企業実習の担当者等に対して、学生時代に学ばせたい事を聞いてみると、知識や技術の習得以外に、人と人とのコミュニケーションを選択する方が多い。一方、本校の卒業生はコミュニケーションについては概ね良い返答をいただいている。	3	学生に対しては、自動車整備業や自動車製造業はすべてお客様あつての業種であることを理解してもらい、適正なお客様対応ができる接客授業を行い育成していく。	特になし。

\* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・オンライン授業を活用し、効率化と教育の質の向上を目指す。
- ・カウンセリングを学生全体に対しすぐに相談できる場所として丁寧な周知を行い、退学者数の減少を行う。

## (5) 学生支援

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し多数の求人獲得に努力している。 また、電子求人システムを企業担当者、学生双方が活用することにより効率的な支援体制となっている。	4	企業により求人システムへの入力、利用法などシステムの理解度に差があるが、問い合わせに対し柔軟に対応できている。	特になし。
・学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談(ハラスメント等を含む)は、学年担当職員が対応し、それを主任がカバーする。また、女性教員や保健室、奨学金・保険担当室や入試・進路課など気軽に相談できる窓口も用意され学生の相談体制も整っている。	4	学生が相談できる仕組みは整っている。次の課題は様々な相談に対応できる職員を増やすことである。相談できるスキルアップだけでなく、相談しやすいと感じさせることができる職員になる必要があるため各種研修の参加や職場内研修などで対応している。	企業でもハラスメント研修を行っており、対人関係の難しさが課題となっている。学校においても積極的に研修、教育を行う必要がある。
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	高等教育修学支援制度による入学金、授業料の減免や免除、下宿生への支援金供与、日本学生支援機構等の奨学金制度、本校独自の企業奨学・推薦制度等、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており専門学校評価基準を十分に満たしている。	4	各種減免により経済的負担は軽減される傾向にある。さらに、その各種減免と併用できる企業奨学金の利用により多くの学生が経済的負担の軽減を実感していると感じる。しかし、家庭により経済状況が異なるため、きめ細かい対応が必要になっている。	特になし。
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	メンタルケアについては専門のカウンセラーによるカウンセリングを受けることができる状態にある。また、校内各所に体温計などを配置し、怪我や発熱に対しては適切な病院を案内している。	3	メンタルケアを必要とする学生が増えているため、専門家によるケアが今後も必要となる推測できる。	特になし。

・課外活動に対する支援体制は整備されているか	学生主体のサークル活動に移行することにより学生が主体的に活動を行っている。また、学校による支援体制も充実している。	3	サークル支援に対する職員の関わり合いについて、担当者や時間、待遇など検討を要る。	特になし。
・学生の生活環境への支援は行われているか	1人暮らしの補助により下宿生には1万円/月の支援金を供与している。(留学生を除く)	4	1人暮らしの補助、通学費支援により募集活動に効果を発揮している。本年度募集から在学中の支援となる交通費支援ではなく、父母等が期待する入学前の支援となる入学金減免(半額)に変更した。	特になし。
・父母等と適切に連携しているか	例年、後援会総会後に担任と父母等との個別面談を実施している。また、電話連絡等により父母等に学生状況の報告を行い、相互理解に努めている。	4	実現可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。	特になし。
・卒業生への支援体制はあるか	卒業後の状況についてはインターンシップの訪問に絡めて確認し、フォローアップに努めている。特に整備士資格の未取得者には資格取得の支援を強力に行っている。	4	卒業後、数年経った離職者に対する就職支援も行っている。少数ではあるが再就職に結びついている。	特になし。
・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき企業ニーズを直接学生に伝える場も用意している。	4	業界関係者が気軽に企業ニーズを発することができる体制(HP等)を入試・進路課を中心に整えたい。	特になし。
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備業界の紹介や自動車整備の模擬授業を展開している。また、「進路講話」「専門学校とは」「面接指導」などの各種指導を担当し高等学校のキャリア教育に積極的に参画している。	4	各種の講義、講話の内容を継続的に改善し、さらに効果と魅力がある内容にしたい。	特になし。

\* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・学生が集まる場所に案内掲示を行い、学生全体にメンタルケアを周知させる。
- ・サークルやモータースポーツ活動を積極的に行い、校名の認知度を上げる。

## (6) 教育環境

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。教育用機器・教材に関しては中期経営計画に沿って年度毎計画的に購入している。今年度はB・C棟エア・コンプレッサを設置した。	3	施設・設備の規模や整備内容は充実しているが、経年劣化のため修繕を要する場所が次々に現れ、その対応に時間と費用がかかっている。熱中症対策として、ボディ実習場にエアコン設備を検討する必要がある。	特になし。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	教育課程表に定められたインターンシップは実施した。海外研修については、今年度実施していない。	3	企業内定者については、全員が企業インターンシップに参加できるよう計画したい。国内・海外研修については令和7年度をもって物価の高騰や学費負担の軽減により終了しました。	特になし。
・防災に対する体制は整備されているか	令和7年に災害対策対応マニュアルを改訂した。緊急時の教職員及び学生への連絡、安否確認体制についてGoogleを利用し確立した。安否確認等訓練を複数回実施、習熟度を高めた。	4	学生の安否確認に使用しているGoogleフォームの取り扱いについて、一部の職員に不慣れな場合が見られ、習熟が必要である。スマートフォンで対応できる簡易的な災害用アプリの利用を再検討したい。静岡市と本校B棟2階～4階施設を災害時の避難施設として協議し、宮前地区自治体とも連携をした結果、避難所指定場所として登録した。	特になし。

\* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・ボディエンジニア研究科実習場の暑さ対策では、クーラー導入を実施する。
- ・宮前地区避難所指定に伴い実践的な訓練を推進する。

## (7) 学生の受入れ募集

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学生募集活動は、適正に行われているか	EV シフトされる業界の現状や進化する自動運転などの先進安全技術を捉え、今後必要となる一級整備士の必要性を伝えるとともに、企業奨学制度、企業の現役メカニックによる実習授業や資格取得成果の3つの特徴を柱に活動を実施した。また、小中学生への自動車整備士の啓発活動も継続している。	4	県内は勿論、県外や浜松工科のエリアに囚われない広報活動が必須となる。学校の強み、特徴を様々な広報ツールを使って訴求し、希望者に対して、接触からリーチまで段階毎に丁寧な対応を心掛ける。また、新聞、ラジオによる自動車整備士イメージ向上の為の啓発活動なども積極的に展開したい。	企業実習など多くの協力企業様があり、特定メーカーに偏らず、幅広いメーカーのことが学べるため、他校との差別化をアピールし、学生募集活動に活用してほしい。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、大変重要な判断材料になる。静岡県を中心とした学生募集活動において数値化した実績公表で教育活動の信頼性を高めるとともに、志願者や各高等学校への職員による説明やホームページ上で情報を公開している。	4	学校パンフレットや SNS (Instagram) に加え、新たにホームページ内の「Instagram 連動」を活用し教育活動を分かりやすく伝え、本校の各種情報も継続的に発信したい。	モータースポーツ活動などをもっと強く打ち出すことが必要と考える。
・学納金は妥当なものとなっているか	物価上昇に伴い、令和8年度募集に続き、令和9年募集も授業料を改定することになっている。	4	入学金、授業料、各種諸費用について見直しを行い学納金を改定済み。	特になし。

\* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・現役メカニックによる実習授業、メーカーに偏らず幅広い学びの提供を周知する。
- ・エリアに縛られない広報活動やメディアの活用にて募集活動、情報提供の発信。

## (8) 財務

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	定員充足による収入維持と経費削減により財務基盤の安定化を図っている。	4	施設老朽化に伴う修繕費等が増加基調にあるが、計画的な更新により費用の平準化を図っている。 中長期的には引き続き経費節減。	特になし。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3ヵ年毎の中期経営計画に基づき年度の事業計画が作成されている。予算は経営目標を達成できるように立案し、管理部門のヒアリングを通じて適正に決められ、その執行は有効性と妥当性を考慮して厳正に行われている。	4	キャッシュフローを把握し、事業活動収支差額への影響を十分に吟味した上で、必要な事業には投資できるよう管理している。	特になし。
・財務について会計監査が適正に行われているか	公認会計士により毎年、理事者及び実務担当者へのヒアリングと財務諸表各項目について適正に監査が行われている。	4	適正に行われている。	特になし。
・財務情報公開の体制整備はできているか	私立学校法に基づき制定された「情報公開に関する内規」により財務情報公開の体制は整えられている。	4	公開用財務諸表を金庫内に備付け、ステークホルダーに対する公開体制は整備できている。	特になし。

\* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・施設設備更新や災害対策などを平準化となり、今後も定員確保と経費削減で財務基盤の確保を維持する。

## (9) 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている。 年1回、法人本部による業務監査及び監事による業務監査を行い、改善・指摘事項については改善策を講じ対応している。	4	特になし。	特になし。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護規程を定め、個人情報が漏洩しないようにしている。また業務委託業者とは機密保持契約を締結している。また、年1回、個人情報保護監査責任者による内部監査を実施している。	4	特になし。	特になし。
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	自己点検・評価は、毎年見直しを行い、年度末には所属長による改善指示をしており、学校関係者評価による検証も行っている。	4	特になし。	特になし。
・自己評価結果を公開しているか	自己点検・評価の公開についてはホームページ等で公開している。	4	特になし。	特になし。

\* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・教職員のコンプライアンス教育を継続する。
- ・学生への意識づけとして、違法改造や交通違反を防ぐため、学生にも法令順守を浸透させる。

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	中学生職場体験を受け入れ地域の中学校との連携を図っている。また、高校生エコラン大会では事務局として大会運営に携わり、会場の貸し出しも行い、静岡県工業校長会の連携を図っている。	4	社会人講座は地域貢献・社会貢献の一環として社会ニーズを捉え積極的に取り組んでいきたい。	特になし。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	歳末助け合い募金を実施することにより学生がボランティア活動に参加することができている。	4	学生が自ら企画・立案するボランティア活動をさらに行えるよう支援していきたい。	学生が指示待ちではなく、主体的に地域貢献を考え人間・職業教育につなげることが求められる。
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	小学生に対するお仕事講座を実施。また、お仕事フェアなどへの参加により地域社会の若年層にたいする講座を積極的に実施した。	4	地域社会からの要望に応えながら実施する必要があるため、ニーズの確認を引き続き行う必要がある。	特になし。

\* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・学生が自ら地域貢献を考え、主体的に活動し、人間教育・職業教育へとつなげる。

## ( 1 1 ) 国際交流

評価項目	具体的取組	自己評価	学校改善案	評価委員会の意見
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	業界の慢性的な整備士不足に対応するため、令和6年度入学定員60人から令和7年度入学定員を80名に、令和7年2月理事会にて変更し、受け入れ拡大を実施した。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学費や生活費をアルバイトで稼ぎ通学している留学生が多く、昨年度に引き続きアルバイトが激減したため授業料の支払いに苦勞する学生が多く見られた。留学生も対象となる奨学金制度の開拓が必要である。</li> <li>・留学生の入国規制が緩和されたため、日本語学校に留学生が増加し始めている。また、留学生増加に伴い、下宿先やアルバイトの斡旋を学校として紹介する必要性を感じている。</li> <li>・在留ビザ更新が令和7年度より支弁者等の提示が厳格に求められるようになり、在留期限が3年間から1年間になる学生が多くみられるようになった。</li> </ul>	特になし。
・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか	留学生の在籍管理等は適切に行われており、本年度も名古屋入国管理局から「在籍管理が適切に行われている専修学校専門課程」として適正校認定された。	4	ビザの更新、就労ビザへの変更許可や休退学があった場合の届け出などに学校として積極的に関わり、きちんと在籍管理を行った。	特になし。
・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	学校組織図に留学生担当生活指導担当を明記し、学修・生活指導の体制を整えている。日常のことはクラス担任が対応し、必要に応じて科の主任や教務課長が対応する。	4	課税証明書の確認を行うことで入管法施行規則に定められた週当たり28時間のアルバイト時間を守らせるよう工夫している。	特になし。

<p>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</p>	<p>自動車整備系学科では卒業時に整備士の国家試験を受験している。 産能大、放送大とのダブルスクールを取り入れている。一級自動車整備士動画を社会人対象に展開しており、受講生も増え始めている</p>	<p>3</p>	<p>一級試験合格率の向上が続いている。産能大は少数ではあるが順調に卒業者が出ている。 放送大学の在校生は減少傾向になっている。</p>	<p>大卒資格があることで、開発系職種などへの募集・評価が広がる。一方で、学費の負担が大きいいため、学生に対し必要性も考えなければならない。</p>
---------------------------------	--	----------	--	--

\* 4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA. 当てはまらない

今後に向けての学校の考え

- ・留学生の在留資格厳格化に伴い、学校と企業様の連携による育成計画を計画する。
- ・大学併修履修の必要性を発信し、学生の幅広い就職活動につなげる。